

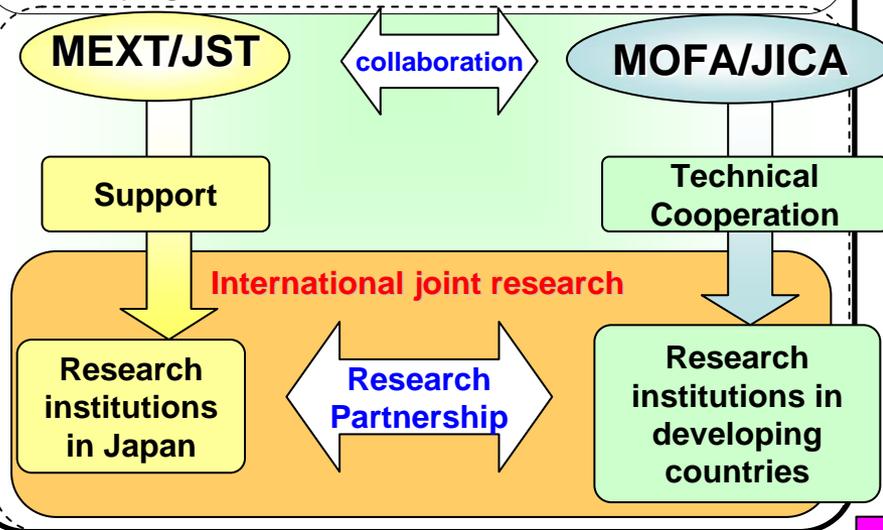
MEXT's new Activities: Strengthening S&T cooperation with developing countries to solve global issues (2)

① S&T Research Partnership for Sustainable Development

- International joint researches on global issues*, among research institutions in developing countries and Japan are promoted by MOFA/JICA and MEXT/JST in collaboration.

* Environment, energy, disaster prevention, infectious disease control

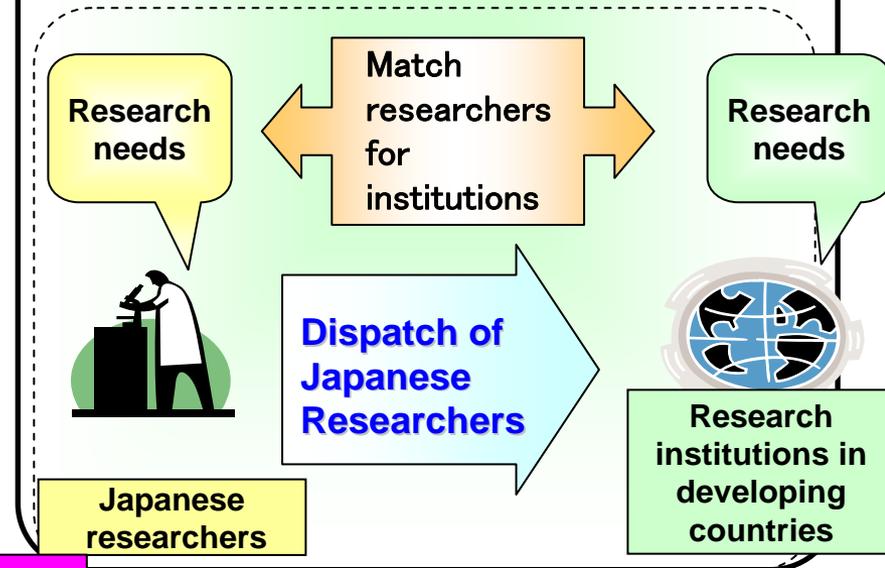
- The objectives are elaboration of outcome to lead to problem solving and capacity building of institutions in developing countries.



② Dispatch of Science and Technology Researchers

- Researchers are dispatched for joint research in the field of global issues by JICA after matching research needs in developing countries and Japan.

- The system to match Japanese researchers for institutions is developed.



Reinforcement of capacity in developing countries to find solutions for problems by their own



独立行政法人

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

II . Africa Mission of the Cabinet Office



独立行政法人

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

私のたどった行程



関空



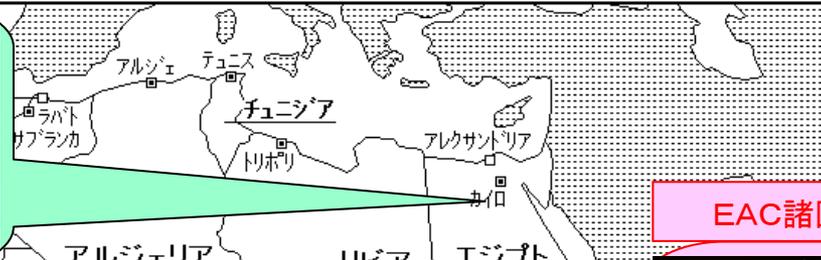
独立行政法人
科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

アフリカ十数カ国との地域セミナー開催



北アフリカ諸国との地域セミナー



EAC諸国との地域セミナー



ガーナとのセミナー



SADC諸国との地域セミナー



- 首都
- 主要都市

アフリカ



What we achieved and found (1)

1. 地球規模課題対応国際科学技術協力事業に関すること(期待と要望)

- ① 今回のミッションによって、地球規模課題対応国際科学技術協力事業の仕組み、特徴、応募の方法等について**アフリカ諸国の認識、理解が格段に進んだ**。その結果応募についての積極的な発言が出されるなど関心の高さが明らかとなったので、次年度以降の応募への取り組みが期待される。
- ② アフリカ諸国としては、**国毎にあるいはサブリージョン(地域)毎に(エジプト、ケニア)枠を定めて課題採択をしてほしい**という要望が寄せられた(特に南ア)。(このような声に対して2008年度の課題採択率はアフリカについては20%超であり全体の採択率の倍に達していること、アフリカの中でも南アやエジプトなどの先進的な国だけではなくガボンやザンビアのように地球規模の課題であって科学的なテーマがあれば採択されうることを説明。)
- ③ また、課題提案に係る**複雑な手続きの簡素化**を求める声もあった(エジプト)。
- ④ さらに、**地域の中核的研究拠点整備**についての支援を求める声もあった(ガーナ)。



独立行政法人

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

What we achieved and found (2)

2. JICAのODA協力との連動について

① JICAが整備した研究所（ガーナの野口研、ケニアのKEMRIやKARI）について、研究の中身についての日本の協力が行われておらず、米国のUSAIDや英国のWelcome Trust、スウェーデンのSIDA等がグラントや研究者派遣による研究活動を支援しているのが現状。（そもそもアフリカ諸国の研究所の運営経費は人件費以外（人件費は現地政府持ち）はほとんど全て外国のグラントに頼っている状況。）

② エジプトのE-JUST計画のように大学の整備までは計画ができているものの、その後の大学運営を支える資金のめどが立っていないプロジェクトにも課題は多い。JICAは運営経費には協力できないことを明確にしてはいるが、当然のように我が国にも多くの期待が寄せられているところである。

③ 現地の大使館やJICA事務所からも、継続的な研究活動や研究人材育成についての要望や課題に対する対応策として、地球規模課題対応国際科学技術協力事業における研究協力に大いに期待するとの声が寄せられた（エジプト、ボツワナ、エジプト、ガーナ）。



What we achieved and found (3)

2. 関連施策との総合的連携と地域ごとの科学技術外交政策の必要性

①我が国が積極的に貢献して整備が進んだ**地域の中核的研究拠点(地域COE)**に対しては、(ある程度良い提案が申請されることが前提であるが)地球規模課題対応国際科学技術協力事業における研究協力を積極的に採択することや、感染症研究センターを設置すること、国費留学生の枠を地域ごとに設定することなど**途上国協力の資源を政策的、集中的に投下することも検討すべき**であると思われる。

②また、大学整備プロジェクトの次のステップの協力プログラムとして、科学技術分野特に重要として定める地球規模課題対応の**科学技術分野における高等教育を継続的に支援できるプログラムの開発**などが重要であると考えられる。

③これらの施策の総合化の前提として、総論としての科学技術外交政策を各論に展開して、**地域ごと**あるいは**国別のミクロな科学技術外交方針の検討、策定**が必要になるものと思われる。拠点大学の整備や共同研究プログラムの実現など科学技術外交関連施策の立ち上がりと進展を踏まえ、地域拠点の選び方、支援の総合化等に対するロジックと戦略が必要となろう。



独立行政法人

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency